

平成25年度土佐塾高等学校卒業式が挙行される

平成26年1月30日(木)、平成25年度土佐塾高等学校卒業式が行われ、男子105人、女子90人の計195人が慣れ親しんだ学び舎から旅立ちました。

卒業式は、多くのご来賓のご臨席の中、午前10時に開式しました。国歌、校歌の斉唱に続き、卒業生一人ひとりが呼名され、佐々木校長から各ホームの代表者に卒業証書が授与されました。

式辞では佐々木校長が、平和のために生涯をささげてノーベル平和賞を受賞した南アフリカの故ネルソン・マンデラさんや、漫画や歌や詩を通して優しさと平和の尊さを教えてくれた故やなせたかしさんの話を取り上げ、「困っている人を助け、弱い人に手を差し伸べる、その仕方には様々なカタチがあります。皆さんには、小局だけではなく大局を見ながら、表層だけではなく深層に目を向け、目先だけではなく中長期的視点に立ち、考え、そして、正しい国家観と世界観を持ち、それぞれの個性と能力を生かしながら、一人ひとりが憂国の士となって、行動してください」という言葉を卒業生に贈りました。

来賓を代表され、父母と先生の会山本裕司会長が祝辞を述べられました。「感謝・目標・伝統」の3点についてお話をしていただき、卒業生が社会で活躍することを心から願っていますという激励のお言葉をいただきました。

送辞では生徒会長の乾くるみさんが、先輩の偉大さや優しさ、先輩から多くのことを学んだことに対してのお礼を述べました。

答辞では、吉村早織さんが、故やなせたかしさんの「何事も足元から一歩、一歩と進むうちに必ずいい結果に向かっていくのです」という言葉を引用し、文化祭・体育祭や修学旅行などの行事をはじめとする、中学・高校6年間の学校生活での歩みを振り返りました。そして、自身の価値観を大きく変えたものとして沖縄への高校修学旅行を挙げ、「同じ場所に居ることはできないとしても、相手を思い、相手の心の近くに居たい」「平和な世の中を築いていくことは、未来を担う私たちの役目です」と述べました。「今までは、支えられ背中を押されて進んでいた一歩を、これからは、自分の足で踏み出す一歩に変えていきます」という決意の後、地域の方々・教職員・保護者・後輩への感謝の言葉も述べ、非常に心温まる答辞でした。

父母と先生の会高3学年幹事の吉村宏子様からは、教職員への丁重な謝辞と、卒業生への温かいお言葉、またGReeeeNのHIDEさんから卒業生へのサプライズのプレゼントをいただきました。

退場に際し、卒業生からは学年団の教員や保護者の方へ感謝の気持ちを伝える言葉と歌があり、最後まで厳かな中にも感動的な式となりました。

卒業生の皆さん一人ひとりが土佐塾高校卒業生としての誇りを持ち、将来の夢や希望に向かって、明るくそして誠実に歩み続けられることを願っています。

保護者の皆さまならびに関係各位のご支援とご厚情に、教職員一同心よりお礼申し上げます。

以下は卒業式と式後の様子です。

